

平成 26 年 12 月 14 日執行衆議院議員選挙 調査結果の概要

1 年代別の投票行動

(1) 年代別の比較

21 歳～24 歳 (32.98%) が最も低く、年齢層が上がるとともに高くなっており、70 歳～74 歳 (71.39%) で最も高くなり、80 歳代以上 (52.27%) では低下している。

(2) 前回衆議院議員選挙との比較

前回衆院選 (H24) と年代別の投票率を比較すると、全ての年代で前回を下回っており、特に 30 歳代・40 歳代では 10 ポイント以上下回っている。

なお、全体の投票率 (公式結果) は、54.36% で、前回衆院選の 62.20% に比べて 7.84 ポイント低くなっている。

2 男女別・年代別の投票行動

20 歳、21 歳～24 歳、40 歳～44 歳、65 歳～69 歳以上の各層では男性の方が、それ以外の各層では女性の方が高くなっている。年齢層が高くなるにつれて差が大きくなっており、80 歳代以上では、男性 62.57%、女性 46.74% で、その差が 15.83 ポイントと最も大きくなっている。

なお、全体の男女別投票率 (公式結果) は、男性 54.89%、女性 53.85% で、男性が女性を 1.04 ポイント上回った。

3 地域別・年代別の投票行動

全ての地域で 70 歳代が最も高く、20 歳代が最も低くなっている。

なお、地域別の投票率 (公式結果) をみると、区部 53.77%、市部 55.65% で、市部が区部を 1.88 ポイント上回っている。

4 区部地域別・年代別の投票行動

特別区をさらに、①都心地域、②城南地域、③城西地域、④城北地域、⑤城東地域の5つに分け、地域ごとの概要をまとめている。

なお、26市5町8村については、面積が広く、また区部に比較すると人口が集積していないことから、地域を区分けして集計・分析は行っていない。

(注) 平成24年12月16日執行衆議院議員選挙を「前回衆院選」と略した。